

「しっかり洗浄」乳頭清拭の強い味方

■ 飼養形態

導入前 導入後	労働力 (雇用人数)	飼養頭数		飼養形態
		経産牛	育成牛	
令和元年	4名(0名)	143頭	141頭	FS
令和3年	4名(0名)	170頭	158頭	FS



■ 農場内で利用している機器

哺乳ロボット エサ寄せロボット 乳頭洗浄機

■ 導入した目的と効果が上がった点

《目的》搾乳作業の簡素化、効率の早さを達成し、同一の作業ができる（人の入れ替わりがあるから）ようにするため

《効果》体細胞の安定、搾乳時間の短縮。

■ 導入した機械の台数、価格など

導入台数：2台	導入年：令和元年	導入価格：約350万円
保守点検・修理費：修理は物理的なカバーの損傷により年に1～2回ほどで、費用は5万円程度かかる。消耗品（ブラシ）は3～4ヶ月間隔で交換する。購入時についてきた予備品で対応できている。		

■ 労働負担軽減の程度、利用方法

	導入前	導入後
労働の変化 (搾乳時間/頭) (労働人数)	15分/頭	13分20秒/頭
	90分(120頭)	110分(150頭)
	2名	2名
時間の使い方の変化	搾乳作業時間が減った分、牛の管理作業時間が増加した。	
利用時間(間隔)	搾乳牛全頭	

■ 今までに経験した機器トラブルの内容と対処方法

- ・牛にけられてカバーが割れる。
- ・凍結には気をつける → 冬期は本体のモーター部分を断熱。

■ 利用上、工夫している点（機能の使いこなし術など）

- ・機械が重い（1.6kg+水の重さ）ので、柄の部分の短く持って使用している。

■ 今後、導入を検討する方々に向けたアドバイスなど

- ・便利な機械だが重たいので、作業者に合うか確認してほしい。

■ 導入前後の生産性の変化

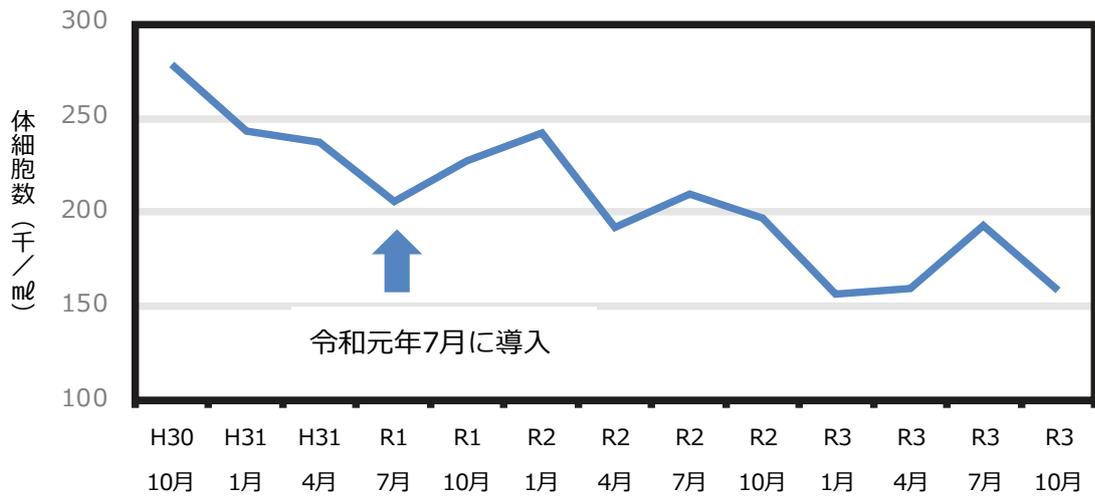


図1 導入前後の体細胞数の変化

■ 機器の使用状況



写真1 パーラーに設置した乳頭洗浄機
前側と奥側で2台設置し、機器の移動は
レールを使う



写真2 乳頭洗浄機の使用
レバーを押すと洗浄水を噴出しなが
らブラシが回転する。洗浄機に乳頭
を入れると乳頭全体が洗浄できる。



写真3 乳頭洗浄機のモーター



写真4 厳冬期は発砲スチロール容
器で断熱